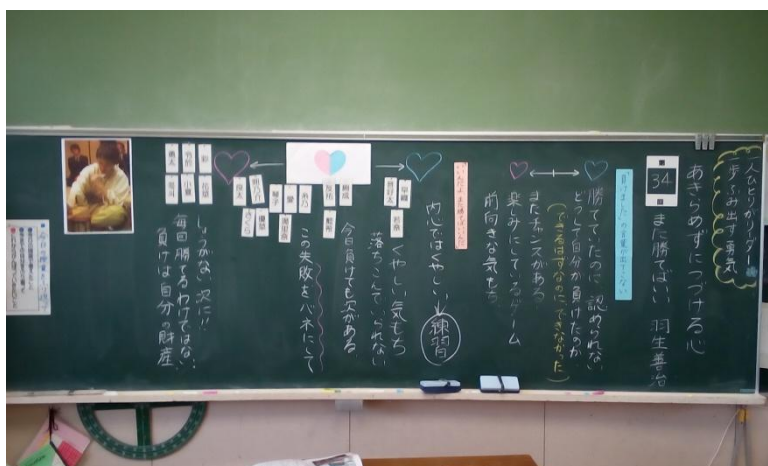


～道徳「また勝てばいい 羽生善治」〔6年1組 学級通信〕～



先日の道徳で、教材「その思いを受けついで」を学習しました。価値項目は「希望と勇気 努力と強い意志」です。

将棋界で、7冠王にまで登りつめた羽生善治さんの子どもの頃に体験した心の葛藤や挫折を中心としたお話でした。勝てると思っていた昇級審査の勝負に負けてしまい、なかなか「負けました」の一言が言えないくらいの悔しさを体験した羽生少年。その悔しさを乗り越えた羽生さんはその後、勝敗を前向きに受けとめ、その過程や結果を次につなげるポジティブな姿勢で将棋に向き合います。生きていれば、うまくいかないこと、思うようにいかないことは、たくさんあります。そのたびに人は成長していけると思うのですが、いつも前向きに受けとめられるばかりでもありません。そんな自分も認めながら、いつかは前を向いて歩まなければなりません。

もうすぐ始まる中学での生活に、期待と不安を感じながら日々を過ごしている6年生の子どもたちにも、前を向いて歩いてほしいです。

道徳ノートより(中略)

○(羽生さんの) 次勝てばいいという気持ちに変わってきているところかもしないなと思いました。私も負けるのは悔しいので落ち込むこともあるけど、次に生かして反省することもあるから、ネガティブにならないようにポジティブになれるように頑張りたいです。

○たとえば勝負に負けたとしても、ブルーにならずに次頑張ろうという気持ちになりたいです。人間は失敗をしながら育っていくから、あまり気にしないで次がんばろうと思います。

○ぼくはこの「また勝てばいい」では、改めて続けることが大切だなと思いました。… やめないうちをもちたいと思います。

○私は今日の道徳で、成功がすべてじゃない、あきらめない心を持っていれば、成功への鍵が見つかることが分かりました。… 困難なことに直面したときには、それに耐えられる忍耐力をこれからじゃあおそいかもしれないけどつけていきたいです。